

本県の復興の現状と 中長期的に取り組むべき課題

被災者の人間らしい「暮らし」「学び」「仕事」を確保し、
一人ひとりの幸福追求権を保障



岩手県イメージキャラクター「わんこきょうだい」

令和7年11月5日(水)

岩手県

岩手県の復興の現状

復興を県政の最重要課題とし「誰一人として取り残さない」という理念のもと、復興推進プランに掲げる「**4本の柱**」に基づく復興の取組を進めている。

I 安全の確保

- 防潮堤などの津波防災施設の復旧・整備は、残り**1箇所**（宮古市・閉伊川水門）



II 暮らしの再建

- 災害公営住宅が完成し、応急仮設住宅の全入居者が恒久的な住宅に移行
- 被災した医療機関・公立学校施設の復旧完了

III なりわいの再生

- 漁船・養殖施設・漁港・海岸保全施設等のハード面での復旧・整備は完了
- 事業者の債権買取や販路開拓支援により、被災した事業者の8割が事業を再開

IV 未来のための伝承・発信

- 東日本大震災津波伝承館来館者数**130万人超**
- いわて震災伝承施設・団体ガイド
ウェブサイト「**IWATE TSUTAERU**」
令和7年3月開設



中長期的な課題

— 国の「復興の基本方針」を踏まえ、継続して対応 —

- 1 こころのケア・生活相談等の被災者支援
- 2 被災した子どもたちへの支援
- 3 水産業の再生
- 4 地方創生施策等の活用（移転元地等）
- 5 原発事故に伴う放射線影響対策
- 6 震災の伝承・発信

県において、令和9年度からの2年間を計画期間とする「**第3期復興推進プラン**」を策定し、国の「復興の基本方針」に基づく支援を活用しながら、「誰一人として取り残さない」という理念のもと、これらの課題に継続して対応

1 安全の確保

海岸保全施設等の復旧・整備

1 箇所(宮古市・閉伊川水門 令和8年度完成予定)を残して完了

閉伊川水門は、宮古市街地を津波から守るため、
閉伊川河口部に建設中の国内最大級の津波対策水門です。

事業主体	復旧・整備 計画箇所数	工事中箇所数	完了箇所数	合計 (工事中+完了)
県	113	1	112 (99.1%)	113
市町村	29	0	29 (100.0%)	29
合 計	142	1	141 (99.3%)	142



閉伊川水門（宮古市）令和7年10月撮影

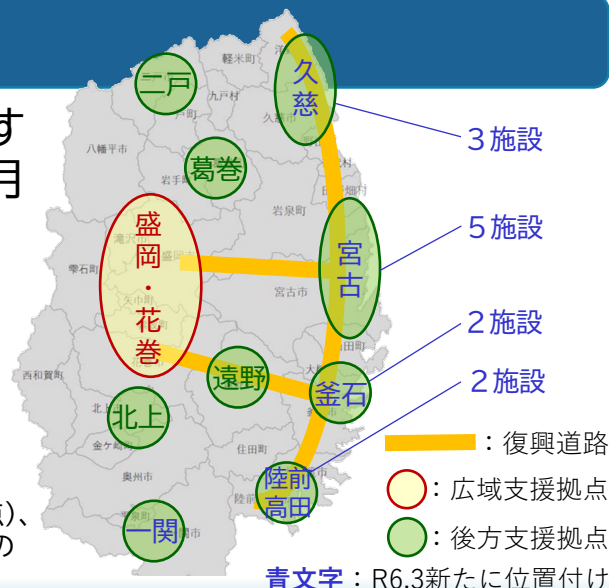
広域防災拠点の整備

復興道路等の整備を踏まえ、沿岸部の防災拠点機能を強化するため、「岩手県広域防災拠点(※)配置計画」を令和6年3月に見直し、新たに沿岸部に12施設を位置付けました。

沿岸地域 (うち、令和6年度運用開始)	内陸地域 (うち、令和6年度運用開始)	合 計 (うち、令和6年度運用開始)
12 施設 (12 施設)	35 施設 (8 施設)	47 施設 (20 施設)

※「岩手県広域防災拠点」

県内全域で発生する大規模災害に対応する人・物・情報に関する機能を有する拠点(広域支援拠点)、被災地により近い場所で被災地で活動する人・物・情報に関する機能を有する拠点(後方支援拠点)の両拠点が、災害時に連携し、一体となり防災拠点機能を発揮します。



2 暮らしの再建

いわて被災者支援センターの運営

生活面や経済面等の複雑な課題を抱え、生活が安定していない被災者に対して、関係機関や専門家と連携し、生活再建を支援するため、いわて被災者支援センターを設置・運営しています。

■ いわて被災者支援センター 相談対応回数

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1,288件	2,664件	2,941件	2,770件

〈令和6年度 主な相談内容〉

家族に関する相談(698回)
家計に関する相談(252回)
債務に関する相談(618回)



センターでの相談の様子

岩手県こころのケアセンターの運営

精神科医等の専門職が被災者一人ひとりに寄り添ったこころのケアを実施しているほか、こころの健康づくりに関する普及啓発や人材育成に取り組んでいます。

■ 岩手県こころのケアセンター 相談対応回数

平成24年度	平成25年度	平成26年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度
7,737件	10,203件	10,747件		7,304件	8,031件	11,390件

いわての復興教育

市町村教育委員会・関係機関・団体等と連携しながら、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、各学校の教育活動を通して、3つの教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」を育てる取組を推進しています。



復興教育で学んだ教訓や未来への提言を
発表する児童生徒実践発表会の様子

3 なりわいの再生

水産業の振興

海洋環境の変化に対応した安定的な漁業生産の実現に向けて、主要魚種の資源回復、増加している資源の有効利用、**新たな漁業・養殖業の導入**等を推進するとともに、**次代を担う漁業就業者の確保・育成**に取り組んでいます。

■ サケ・マス類の海面養殖の生産量等

項 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
サケ・マス類の海面養殖生産量	16t	177t	569t	1,191t	1,810t	2,032t	3,000t程度の生産が計画されている
実施地区数	1 地区	3 地区	4 地区	6 地区	6 地区	7 地区	

- ▶ 令和元年度以降、県内各地でサケ・マス類の海面養殖試験が開始され、令和7年度には3,000トン程度の水揚げが計画されており、引き続き、本県の新しいつくり育てる漁業を積極的に推進していきます。

ギンザケ
(久慈育ち琥珀サーモン)



サクラマス
(釜石はまゆりサクラマス)

■「いわて水産アカデミー」の研修生受け入れ状況(修了生人数)

項 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
県内出身者	6 人	4 人	3 人	7 人	4 人	9 人
県外出身者	1 人	2 人	4 人	2 人	1 人	3 人
合 計	7 人	6 人	7 人	9 人	5 人	12 人



集合研修 (ロープワーク)

- ▶ 漁業の担い手を確保・育成するため、平成31 年4月から「いわて水産アカデミー」を開講しており、集合研修や現場で指導者から学ぶ実践研修などを行い、漁業に必要な技術や経営手法等を習得できるよう支援しています。
- ▶ 修了生全員が、県内の定置網漁業、養殖漁業、漁船漁業に就業しています。

4 未来のための伝承・発信

東日本大震災津波伝承館の運営

東日本大震災津波伝承館（いわてTSUNAMIメモリアル）では、**展示及び教育・普及の事業を実施**しているほか、大学、各地の震災伝承施設、被災地をはじめとする県内各地域等と連携し、**防災文化の効果的な醸成と継承**を図っています。

■ 東日本大震災津波伝承館 来館者数(人)

R 元年度 (9/22～)	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度 (～9/30)	合 計
148,737	170,699	168,613	207,009	254,315	236,172	131,543	1,317,088



企画展「災害と水」(R7.2～3)

岩手県立図書館 I(あい)ルームの開設

岩手県立図書館に震災・防災等の学び合いスペース「**I(あい)ルーム**」を開設しています。

「Iルーム」は、沿岸の被災地に訪問する際の事前・事後学習が行える施設として、県内の**震災伝承施設等のサテライト的機能**を担っています。

また、自然災害や防災・安全を総合的に学ぶことができる**内陸部の情報拠点**として、東日本大震災津波や防災を含む今日的な課題について、**児童生徒やグループによる学び・探究等を支援**しています。



児童生徒によるグループ学習



セミナー(いわて防災復興研究会)

5 震災の教訓を踏まえた新たな取組

アプリを活用した避難者把握システムの導入

災害時に、LINEアプリを使うことで、避難所での受付時間を短縮でき、車など避難所外の被災者の支援ニーズなどを把握できる「避難者把握システム」の検討を進めています。

現在、スマートフォンの操作に不慣れな方への対応などの課題の解消に向けて、実証事業を進めています。



アプリイメージ

災害ケースマネジメント推進体制の構築

東日本大震災津波の経験と教訓を踏まえて構築した「岩手県被災者台帳システム」を基盤としながら、被災者一人ひとりに寄り添った生活再建をより一層進めていくため、アウトリーチ人材の育成や広域的な支援体制の整備など、災害ケースマネジメント推進体制の構築を目指した検討・準備を進めています。



令和6年度
災害ケースマネジメント推進研修会

震災伝承施設をつなぐウェブサイトの開設

県内の震災伝承施設・団体の概要や実施しているプログラム等を広く紹介し、教育旅行等での利活用促進を図るため、ウェブサイト

「いわて震災伝承施設・団体ガイド IWATE TSUTAERU ～語り継ぐ未来のために～」を令和7年3月に公開しました。



いわて・つたえる

検索